

# ホッとコーヒーはいかがですか?



今回は、外国人技能実習生を受入れされた企業の方に来ていただき、「実際に受入れてみてどんな感じなのか？」を聞いてみたいと思います！私たち事務局は、月1回、訪問指導で実習生たちには会っているのですが、実際、会社側から見た実習生って？現場の声は？事務処理とか面倒？どうなんでしょう？？かく言う私たち事務局も監理事業業務は1年生！（私たちへのダメ出しもあるかも？）ドキドキしながら聞いてみたいと思います。

というわけで、当協会が外国人技能実習の監理事業を始めて、最初の実習生受入れに手を挙げてくださった、近建ビル管理(株) 取締役 最相 淳 氏、同社 総務部 部長 藤庭和彦 氏、そして当協会の理事であり、国際貢献委員会 委員長の山下耕平 氏(双葉メンテナンス工業(株) 代表取締役社長)にお越しいただきました。



**南部** 近建ビル管理(株)さん(以下、近建さん)では元々、留学生や在留者を雇用されていたと聞きました。が、なぜ技能実習生の受入れを開始されたのですか？



**最相** 京都のインバウンド需要が大きくなり始めた2015年頃から、主にホテル客室清掃での人手不足を感じ、人材の募集費用も年々増大。学生や若い主婦層などにも働きやすい環境をと、待遇や諸条件の整備を行っていたがなかなか思うようにはいかなかった。

留学生や在留者は就労時間の制約や在留期間の短さ、言語の壁、個々の対応によって現場担当者の負担が大きかった。外国人技能実習生については、本来の目的は「技能移転による国際貢献」であり、決して「人手不足解消」であってはならないということはわかっていたので、そのあたりは社内でも何度も話し合いを行いました。

**白井** 実習生の受入れには住環境の確保や「生活指導員」「技能実習指導員」などの専門の講習会を受講した人員配置が必須ですし、確かに簡単には決められませんよね。

**最相** 2018年、実習生受入れの実態を知るために、関係先である大手企業の現場に見学に行きました。実際に働いている様子を見て、現場の方や実習生とも話をさせてもらい、これなら当社でも受入れできる、と確信しました。

**南部** では2019年のベトナム現地での面接の時は心配事よりも期待の方が大きかったですか？

**最相** そうですね、不安に思うことや疑問などはもうあの企業見学させてもらったときに全て解消していましたね。それよりコロナの影響で実習そのものがなくなるのではないかと、それが気がかりでした。

**藤庭** 私は総務部として実習生のフォローをしているのですが、入国するまでは、言葉の壁や文化の違いなどで苦労するのではと心配していました。また、日常生活面に於いてどこまで面倒をみなければならぬのか、夜間・休日関係なく呼び出されるのではと心配ばかりしていました。今思えば取り越し苦労でしたね。

**白井** 私たちも、悪いニュースばかり気になって、実習生と受入れ企業の間で挟まってどうなってしまうだろうと、変な心配をしてました(笑)

**最相** 実習生とはいえ、社会人のひとりの大人として覚悟を決めて来ているのだから、そんなにあれもこれも心配しなくても、困ったら「困った」と言うてくるだろうし。困ることを想像して困ってる、みたいな状態があったのかな、とは思いますがね(笑)現場で仕事するという点に関しては、今まで何人も外国人を雇用してきたので、本当に日本語が全然話せない人もいましたし、字が読めないのはほぼ全員だし。確かに現場の人はたいへんだらうけど。

**白井** 近建さんでは、現場の人とコミュニケーション取ってやっていってくれば、日本語が堪能じゃなくても、読めなくても受入れる環境はすでに整っていたということですね。

**最相** ただ、出来ることは限られてしまうので、そこは仕事の内容をしっかりと考えて調整していくことが大切。

**南部** その内容が実習計画に反映されているわけですね。

**山下** 当社は受入れを決める際に、現場の主任を全員集めてミーティングを行いました。今までなら新人に対して、試用期間で判断をできたが、実習生受入れはそうはいかない。一旦受入れたら最後まで面倒見ること。





受入れるこちらもその覚悟は必要。そういうことを話しましたね。受入れた後で「無理、出来ません」は、現場の指導力不足ということになる、それくらいの気持ちでやってくれていると思います。結果的に、指導力のレベルアップや事業所の活性化にも繋がったと思います。

**南部** 双葉さんは今回の受入れで3期目なので実習生受入れが社内ですぐ回っていると感じます！近建さんは今後の予定は？

**最相** コロナ禍からの経済回復の度合いにもよりますが、できる限り今後も続けていきたいですね。ホテルの客室中心で、短時間パートの方のやっている仕事の最終チェックからその後の指示を出せるポジションに就かせたい、インスペクターですね。3年間でそこまで育てたいと考えています。それにはやはり、日本語の上達も必要ですね。

**南部** そうですね。ところで今回の実習生は歓迎会もできず…で、事務局としても心苦しい中、あつという間に配属されて5ヶ月経ったわけですが、どんな様子ですか？

**藤庭** 本来であれば歓迎会や京都の文化に触れるような体験などもさせてあげたいのですが、なかなかそういう事も出来ず、皆さん引きこもり生活のようです。面談などで会うとテンションが高くてびっくりさせられるのですが、逆に無理をしないか心配ではあります。

**南部** 藤庭さんまた心配してますよ(笑)コロナの状況が落ち着いたら改めて何かイベントしたいですね。歓迎会に代わる食事会とか。

**山下** 1期生、2期生の時はいろいろやりましたよ。平野神社の茶席で桜の時期にすき焼きとか、夏は浴衣着てビアガーデンとか。社内の企画チームでいろいろ考えて、八つ橋手づくり体験とか。参加は実習生だけじゃなくて、全社員のイベントに合わせて考えるという具合にして。従業員個々のおもてなし度、思いやり度がアップしたというか、まあ、やっている方が楽しくなってくるという感じはありますね(笑)

**南部** すごい、楽しそう！今出てきた企画、全部楽しそう！

**臼井** 実はコロナ禍になる前の計画では、実習生が入ってきたら、歓迎会をして、その場でベトナムの流行ってる歌をうたって迎えよう！とか。いろいろ考えてはいたのですが…

**最相** 優良な実習実施者や監理団体の認定の要件に「日本文化を学ぶ機会の提供」なんかもありましたよ。ぜひ、落ち着いたら何か企画、お願いします。

**山下** 実習生やこの制度を知ってもらうためにも、受入れ企業だけでなく、協会として何か企画したいですね。落ち着いたら…まあ、考える時間はたっぷりありますよ(笑)

**南部・臼井** はい！優良監理団体目指してがんばります！

**Cafe** 最相さん、藤庭さん、山下理事、お忙しい中ありがとうございました！実習生たちをしっかりとフォローして育てていただけるとステキな会社だなあ、と改めて思いました。これからも実習生、そして協会事務局のことも宜しくお願いいたします！！

## 現場におじゃましました！

近建ビル管理棟  
現場：京都ホテルオークラ



実習生が働くホテルの現場の、お兄さんの存在、吉岡さんと、お姉さんの存在、藤本さん。お二人とも、実習生が来るまでは、言葉や文化の違いなど上手くコミュニケーション取れるのか心配はあったのですが…

最初、思った以上に言葉の違いは大きく、仕事など教えること以前にコミュニケーションをとるのが大変でしたが、わからないことは「わからない」と素直に聞いていて、何事にも熱心に取り組む姿勢がいいなと思いました。日本で売っている青梅をそのまま食べていたので驚きました。実習生受入れは初めてのことなので、しっかり教えられるか不安もありましたが、若さを活かしてこの調子で頑張してほしいです。(藤本美和さん)

明るく元気な子たちでよかったです。最初はやはり、言葉の壁があり、実習生達が伝えたいことを理解してあげられるのか、ホームシックにかからないか心配でした。言葉の違いでのハプニングは、当ホテルでは、拭き上げ用の青いタオルのことを「アオタン」と呼んでいるのですが、ベトナム語では「アオタン」といえば「バスローブ」のことでした！（吉岡美寿さん）

